

# 中学校の運動部顧問教師の生活と意識<sup>※</sup>

西 垣 完 彦

## 1. 研究の目的

中学校の部活動，とりわけ体育的部活動（以下，「運動部活動」という）は，ここ数年過熱化の様相を呈している。その理由としては，「学習指導要領」の改正によって部活動が学校の教育活動の一環として位置づけられるようになったことや，「児童生徒の運動競技の基準」の改正・緩和によって全国規模の大会が開催されるようになり運動部活動に一つの目標ができたことのほか，児童生徒の非行化防止・健全育成の施策に代表されるような生徒の「生活指導」にかかわる諸問題解決の妙薬を部活動に求めようとする学校・PTA・地域社会の動きなどの諸要因を上げることができよう。

しかし，こうした現象は一方では，運動部活動がややもすると選手中心・競技中心，勝利至上主義に傾斜したり，生徒の生活を一定の枠内に拘束して心身の旺盛なエネルギーを発散させるとともに競技力の向上を目差して1年中ほとんど休むことなく部活動が行われ，さらに，学校内においても地域においても部活動指導に熱心な教師を高く評価するような風潮をつくり出すなど，種々の問題を生起させている。

本研究の目的は，このような状況のなかにある中学校運動部の顧問教師の生活と意識の実態を多角的に把握するとともに，顧問教師個々人の部活動指導を中心とする具体的・個別的な生活行動と体系化された意識との相互関連的分析を通して，中学校の運動部顧問教師の意識と行動の全体的構造をより詳細に解明することである。

---

※ 小稿は，昭和55年度科学研究（一般）「中・高等学校の運動部顧問教師の生活と意識に関する実証的研究」の成果の一部である。

## 2. 研究の方法

研究の方法は、主として面接聴取法及び質問紙法調査によった。

本調査に先立ってまず、今日までに集積された研究成果を概観し、調査のための質問項目を選定するために、全国47都道府県の中・高等学校体育連盟に協力を依頼し、運動部活動とくに顧問教師に関する調査・研究報告書等の資料と本研究に関する意見の収集を行うとともに調査対象地のいくつかの教育委員会、中・高等学校の体育連盟や運動部顧問教師等から、運動部活動の状況や顧問教師の生活や意識の実態について面接聴取法による意見収集を行った。そして、設計した調査票をもとに、愛知県下の中・高等学校運動部顧問教師25名を対象に予備調査を行い、質問項目の有効性を検討した後、若干の修正・補正を行い、本調査を実施した。

なお、本調査は高等学校の運動部顧問教師に対しても同一の調査票を用いて行ったが、中学校の顧問教師に対する調査の概要はつぎのようである。

## (1) 調査対象

愛知、岐阜、三重の3県下の10市4町1村に所在する中学校のうち94校の軟式野球、バレーボール、剣道、陸上の4つの運動部の顧問教師全員を対象とした。

対象者は、特定の地域を除き

表1 対象者の属性

—%(実数)—

		男 (253)	女 (36)	計 (289)
学 校 所 在 地	愛知県	42.7(108)	33.3(12)	41.5(120)
	岐阜県	32.0(81)	25.0(9)	31.1(90)
	三重県	25.3(64)	41.7(15)	27.3(79)
年 齢	20歳代	28.5(72)	61.1(22)	32.5(94)
	30歳代	36.4(92)	19.4(7)	34.3(99)
	40歳代	21.3(54)	11.1(4)	20.1(58)
	50歳以上	13.8(35)	8.3(3)	13.1(38)
結 婚	未婚	21.7(55)	50.0(18)	25.3(73)
	既婚	77.5(196)	47.2(17)	73.7(213)
	離・死別	0.8(2)	2.8(1)	1.0(3)
担 当 教 科	保健体育	19.0(48)	27.8(10)	20.1(58)
	他教科※1	69.6(176)	47.2(17)	66.8(193)
	保健体育※2 他教科	11.5(29)	25.0(9)	13.1(38)
教 職 経 験 年 数	5年未満	17.0(43)	44.4(16)	20.4(59)
	5～9年	24.5(62)	16.7(6)	23.5(68)
	10～19年	26.1(66)	25.0(9)	26.0(75)
	20～29年	21.7(55)	5.6(2)	19.7(57)
	30年以上	10.7(27)	8.3(3)	10.4(30)
運 動 部	軟式野球	24.5(62)	—(—)	21.5(62)
	剣道	20.2(51)	8.3(3)	18.7(54)
	バレー ボール	36.4(92)	47.2(17)	37.7(109)
	陸上	19.0(48)	44.4(16)	22.1(64)

※1 他教科とは、保健体育科目以外の教科をいう

※2 教科別実数、( )のなかの数字は保健体育と他の教科を兼担しているもの

国語37(9)、数学43(8)、理科28(4)、社会49(6)、音楽4(2)、美術10(1)、技術家庭18(3)、英語33(4)、その他(養護、特殊教育)9(1)

教育委員会，中学校体育連盟等にある学校別運動部顧問教師名簿にもとづき，上記4運動部の顧問のうち教諭・教頭565名を対象とした。

回収有効調査票は，292部で回収率は51.7%であったが，集計分析にあたっては教頭（3部）を除外した。

### （2）調査の時期と方法

昭和56年3月，郵送質問紙調査法により実施した。

### （3）調査の内容

調査票の質問項目は付録資料2に記載した。

### （4）調査対象者（標本）の社会的属性

表1に示すとおりである。

## 3. 結果と考察

小稿では，紙数の関係上，つぎの視点から調査結果の1部をとり上げ，中学校の運動部活動の現況と顧問教師の生活と意識の実態を個別的・羅列的に把握するとどめた。

- (1) 顧問教師の運動資質と指導能力
- (2) 顧問教師の生活行動と教師生活に対する意識
- (3) 運動部活動の実態と顧問教師の指導行動
- (4) 運動部活動指導が顧問教師の生活におよぼす影響
- (5) 運動部活動をとりまく状況
- (6) 運動部の活動や指導に対する顧問教師の意識や態度

なお，顧問教師の生活や意識と社会的属性との関連性については，小稿では，主として本文でとり上げた項目についてのみ，年齢，性，結婚との関連性をカイニ乗検定で行い，本文で若干の説明を加えた。そして，関連性のある項目についてのみ付録資料1にまとめた。ただし，関連表は全て割愛した。また，調査の回答の単純集計の結果は付録資料2に付記した。

### （1）顧問教師の運動資質と指導能力

運動部の顧問教師の決定は，ほとんどの中学校で教師1人1人の自主性が尊重されており，「教師の希望どおり決定する」（11.8%）か「希望をとって相互に調整して決定」（85.5%）されている（付録資料2：Q3。以下，単に「資2：Q3」と記す）。したがって，顧問教師の多くは一般にスポーツ好きで，スポーツの経験もかなりあり，運動部活動の指導に積極的であると思われる。そこでまず，顧問教師の運動資質と指導能力をスポーツの愛好，スポーツ経験，指導能力の自信，指導のための自己研修などからみてみよう。

① スポーツの愛好

表2にみるように、顧問教師の多くは、「スポーツ」や「自分でするスポーツ」への愛好の

表2 スポーツの愛好 (Q28, 29, 30) ※

	スポーツ 一般	「スル」 スポーツ	顧問 スポーツ
1. とても好き	49.5	42.6	45.0
2. 好きな方	44.3	49.1	43.9
3. 好きでもきらいでもない	4.2	5.2	8.0
4. きらいな方	1.4	2.4	2.1
5. とてもきらい	0.7	0.7	1.0
実 数	289	289	289

※ 表のタイトルの後の ( ) は調査票 (付録資料2) の質問番号を示す、以下同じ。

② 学校時代のスポーツ経験

顧問教師の運動資質や部活動指導能力は、スポーツの愛好の程度とともに過去のスポーツ経験の質や量と深い関連をもっていると思われる。そこでつぎに、顧問教師の学校時代におけるスポーツ経験を運動部 (クラブ) 加入経験とそこでの活動程度などを中心にみてみよう。

表3 学校段階別にみた運動部加入状況 (Q32)

	中学,	高校,	大学	%
加	○	○	○	37.7
	—	○	○	4.2
	○	—	○	3.5
	○	○	—	17.6
	—	—	○	4.2
	—	○	—	7.3
	○	—	—	7.3
入	(66.1)	(66.8)	(49.6)	86.2
	DK,	NA		4.5
未	加	入	13.8	
実	数		289	

(注) 表中○印は加入していたことを示す。

程度が高く、スポーツが「きらいな方」「とてもきらい」とするものは2~3%にすぎない。また、現在顧問をしている運動部のスポーツの愛好についても同様の傾向がみられるが、これについては年齢差がみられ、20歳代教師の愛好度が有意に高い (付録資料1: 危険率5%水準。以下、単に「資1: P<0.05」と記す)。

表3は、学校段階別に運動部加入状況をみたものであるが、顧問教師の86

表4 学校時代の運動部加入年数 (Q32)

	加入 運動部	顧問 運動部
1. ~ 1年	5.2	2.8
2. 2 ~ 3年	16.6	14.8
3. 4 ~ 5年	15.6	8.7
4. 6 ~ 7年	11.1	9.0
5. 8 ~ 9年	6.9	3.1
6. 10年以上	21.8	13.5
DK, NA	9.0	9.0
加入せず	13.8	39.1
実 数	289	289

(注) 中学校 (旧制含む) 以上

.2%が学校時代に運動部に加入しており、運動部加入経験をもたない顧問教師は13.8%にすぎない。そして、顧問教師の37.7%が中学・高校・大学時代にいずれもなんらかの運動部に加入している。また、加入年数についてみると、表4にみるように、40%近くの顧問教師が6年以上運動部に加入している。つぎに、現在顧問をしている運動部のスポーツ経験についてみると、表5、6にみるように、顧問教師の84.4%が学校時代に経験している。

表5 顧問運動部と同じスポーツの経験の有無と経験の場 (Q31)

		%
経験した	1. 運動部に入って	60.9
	2. 体育の授業で	17.6
	3. 昼休みや放課後	3.8
	4. 地域のスポーツクラブや道場, その他	2.1
経験しなかった		15.6
実 数		289

表6 学校時代の加入運動部 (Q32)

	%
1. 顧問運動部のみ	38.8
2. 顧問運動部と他の運動部	17.6
3. 顧問運動部以外の運動部	25.3
DK, NA	4.5
加入せず	13.8
実 数	289

(注) DK, NAは表中1, 2の区分困難による。したがって表5の数字と異っている。

そして、60.9%の顧問教師は運動部に加入して経験している。しかし、加入年数の点からみると、表4にみるように、顧問運動部と同じ運動部加入年数6年以上のものは約1/4程度にすぎない。最後に、運動部での活動程度についてみると、表7にみるように、75%近くの顧問教師が「かなり」「まあ」活発に活動しているし、対外試合についても約74%の顧問教師が出場経験をもっている。そして、約45%のものが国際・全国大会やブロック大会などの比較的高いレベルの大会に出場している。全体としてみれば、顧問教師の多くは学校時代にかなり活発に運動部で活動していたとみてよい。

このように、顧問教師のスポーツ経験は、学校時代の運動部加入経験、加入年数、活動程度などからみる限り、

表7 学校時代の運動部での活動状況 (Q32)

		%
活動程度	1. かなり活発	43.9
	2. まあ活発	30.4
	3. どちらかといえば不活発	10.7
	4. 大変不活発	0.7
DK, NA及び加入せず		14.2
対の 外レ 試合 への 参加 と大 会	1. 国際大会	1.0
	2. 全国大会	17.3
	3. 地区・ブロック大会	26.6
	4. 県大会	21.5
	5. その他	6.9
試合に出場せず		12.1
DK, NA及び加入せず		14.2
実 数		289

年齢，性，結婚などの諸属性に関係なくかなり豊富であるとみてよい。

③ 指 導 能 力

表8にみるように，運動部活動の指導能力に対する顧問教師の自己評価は必ずしも高いとはいえない。すなわち，「まあ自信がある」を入れても指導能力に自信がある顧問教師は44%であり，半数以上のものが「どちらともいえない」「自信がない」と回答している。これは，前述したように学校時代のスポーツ経験は比較的豊富であるが，現在顧問をしている運動部のスポーツを運動部で経験したものが約61%あるにもかかわらず，当該運動部での加入年数6年以上のものが25.6%程度にすぎないことと，指導能力の自信の程度が年齢や性と関連があり，男教師より女教師の方が，また，年齢的には比較的年齢の若い教師程自信がない，つまり，40代=50代>30代>20代（「資1：P<0.05」，不等号は，「2つの比率の差の検定」により，危険率5%水準で有意差のあることを示す。以下同じ）であることなどからみて，運動部活動の指導能力の自己評価は，顧問教師としての指導実践の経験の長短や性差がかなり影響しているものと思われる。

表8 部活動指導能力の自信 (Q43)

	%
1. かなり自信がある	8.0
2. まあ自信がある方	36.0
3. どちらともいえない	24.6
4. あまり自信がない方	22.8
5. まったく自信がない	8.7
実 数	289

④ 自己研修とその意欲

表9 部活動指導のための自己研修と  
研修会参加意欲 (Q34,35)

	%	
自 己 研 修	1. いつもしている	15.6
	2. ときどきしている	41.5
	3. 心がけているがなかなかできない	31.8
	4. していない	10.7
	DK, NA	0.3
研 修 会 加 ・ 講 意 習 会 欲	1. ぜひ参加したい	17.6
	2. できるだけ参加したい	57.1
	3. あまり参加したくない	14.2
	4. 参加しない	5.5
	5. わからない	5.2
DK, NA	0.3	
実 数	289	

このように，多くの顧問教師が学校時代にかなり豊富なスポーツ経験をもっているにもかかわらず，運動部活動の指導に不安を感じているが，これに対して顧問教師の半数以上は，表9にみるように，体育・スポーツ関係の書籍を購読したり技術修得のために積極的にスポーツクラブに加入するなど，なんらかの形で「いつも」「ときどき」自己研修を行っている。また，約3/4の顧問教師が研修会や講習会への参加意欲をもっている。

(2) 顧問教師の生活行動と教師生活に対する意識

教師の学校での生活はきわめて多忙で、仕事の内容も多種多様である。こゝでは、顧問教師の日々の生活と教師生活に対する意識のいくつかをみてみよう。

① 1日の生活（エネルギーの配分）

教師の1日の生活は、大別すれば、仕事（職場）生活と家庭及び余暇生活に分けてみることができる。そこで、1日の生活を「仕事」「家庭」「自分の余暇」の3領域に分け、顧問教師が1日のエネルギーをこの3つにどのように配分しているかをみると、表10にみ

表10 1日のエネルギーの配分—仕事，家庭，自分の余暇—（Q51）

—%—，実数=289

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	平均	標準
		割	割	割	割	割	割	割	割	割	(割)	偏差
a. 仕事 (学校)	—	—	—	1.0	6.9	15.6	31.5	25.6	15.6	3.1	6.3	1.3
b. 家庭	2.4	25.6	37.4	23.5	8.3	2.1	—	—	—	—	2.2	1.0
c. 自分の余暇	5.2	52.2	31.5	7.3	2.4	0.3	0.3	—	—	—	1.5	0.8

(注) DK, NAを除くので100.0%にならない。

るように、平均すれば「仕事」6.3割、「家庭」2.2割、「自分の余暇」1.5割となっており、仕事に6割以上のエネルギーを投入している。したがって、顧問教師の生活は学校中心に展開されているとみてよい。また、この3領域のうち「家庭」と「自分の余暇」へのエネルギーの配分は結婚と関連があり、既婚者は「家庭」に、未婚者は「余暇」に、それぞれより多くのエネルギーを費やしている（資1：P<0.01）。

② 学校での生活

学校での教師の生活行動は、一般に教師の存在状況によって規定されているが、その具体的行動は、教師の仕事の内容の量や質から把握することが可能である。そこでまず、顧問教師が学校ですごす時間を退勤時刻から推定してみよう。

表11にみるように、春夏期では顧問教師の46%が午後7時以後に、また、秋冬期では約56%が午後6時以後に、いずれも退勤している。したがって、顧問教師は一般に学校に遅くまで居残っているとみてよいが、退勤時刻は年齢や性に関連があり、春夏期では

表11 平日の退勤（下校）時刻（Q49）

—%—

	春夏期 (4～9月)	秋冬期 (10～3月)
～4時59分以前	0.3	2.8
～5.29	1.4	17.0
～5.59	8.0	24.6
～6.29	15.9	24.9
～6.59	28.4	15.2
～7.29	24.2	11.1
～7.59	12.8	1.7
8時00分以後	9.0	2.8
実数	289	289

20代>30代>40代>50代, 秋冬期では20代=30代>40代>50代(資1:  $P<0.01$ )といずれの時期も20・30歳代の若年の顧問教師の退勤時刻が遅い。また, 秋冬期では男教師の退勤時刻が遅くなっている(資1:  $P<0.05$ )。ところで退勤時刻は, 授業後の仕事の内容と密接な関連をもっている。

そこでつぎに, 学校に遅くまで居残っている背景を放課後の仕事の内容からみてみよう。

表12にみるように, 顧問教師の放課後の仕事の第1位は「運動部活動指導」42.9%であり, ついで「校務関係」24.6%, 「教科関係」14.5%となっている。したがって, 顧問教師にとっては, この3つが放課後の仕事の中心であるとみてよい。また, この放課後の仕事の内容は, 年齢や結婚と関連があり, 未婚で若年の顧問教師は部活動指導を(20代=30代>40代>50代), 既婚者で高年齢の顧問教師は校務関係を(50代>40代>30代=20代)いずれも第1位に上げている(資1: 年齢 $P<0.01$ , 結婚 $P<0.05$ )。

教師の仕事は, 本来教科指導が中心であり, そのための教材研究や授業の準備・点検・整理などに学校での時間の大半が費やされることが望ましい。しかし, 現実には教科指導

表12 放課後のしごとの内容 (Q50)

	—%—		
	1 位	2 位	計
1. 教科指導の準備・点検・整理	14.5	16.6	31.1
2. 校務関係のしごと	24.6	17.3	41.9
3. 顧問運動部活動の指導	42.9	26.3	69.2
4. 顧問運動部以外の部活動指導	0.3	1.4	1.7
5. 教科指導と直接関係のない勉強や研究	1.7	2.1	3.8
6. 同僚との討論や雑談	1.0	8.3	9.3
7. 部活動を除く生徒指導	10.0	16.3	26.3
8. 教材研究	1.4	6.6	8.0
9. その他	2.8	2.4	5.2
DK, NA	0.8	2.7	3.5
実 数	289	289	289

表13 学校(職場)でのエネルギーの配分 (Q52)

	—%— 実数=289											平均	標準
	0	1 割	2 割	3 割	4 割	5 割	6 割	7 割	8 割	9 割	(割)	偏差	
a. 教科指導(授業, 教材研究など)	—	1.7	9.7	10.7	33.9	24.9	13.8	3.5	0.7	0.3	4.3	1.4	
b. 運動部活動の指導	3.1	13.5	33.6	32.5	11.1	4.2	1.0	—	0.3	—	2.5	1.2	
c. 校務関係, 生徒指導, 雑務など	0.7	8.0	29.1	28.4	19.7	9.0	2.4	1.7	—	0.3	3.1	1.4	

(注) DK, NAを除くので100%にならない。

以外の仕事にかなりのエネルギーを消費している（消費せざるを得ないのが今日の教師の存在状況であるが……）。そこで、学校での仕事を大きく「部活動指導」「教科指導」「校務・生徒指導等」の3つに分け、これらの仕事に顧問教師が学校でのエネルギーをどのように配分しているかをみると、表13にみるように、平均すれば「教科指導」に4.3割、「校務・生徒指導等」に3.1割、「部活動指導」に2.5割のエネルギーを配分している。このように顧問教師は、「教科指導」にもっとも多くの労力を費やしてはいるものの、「校務・生徒指導等」や「部活動指導」にも学校でのエネルギーの半分以上を投入していることがわかる。さらに、「部活動指導」と「教科指導」だけを取り上げて、両者のエネルギー配分を比較してみると、表14にみるように、部活動指導に教科指導と同等かそれ以上のエネルギーを投入している顧問教師は約1/4の24.6%にも達している。また、「部活動指導」に投入するエネルギーの割合は年齢や結婚と関連があり、学校で消費するエネルギーの「4割」以上を運動部活動指導に費やしている教師は、未婚者で20歳代の教師に多い（資1：P<0.01）。

表14 運動部活動指導と教科指導へのエネルギーの配分 (Q52)

	％
1. 運動部活動指導<教科指導	12.1
2. 運動部活動指導=教科指導	12.5
3. 運動部活動指導>教科指導	74.7
DK, NA	0.7
実 数	289

③、教師生活に対する満足度や仕事への生き甲斐

このように、顧問教師の1日の生活のエネルギーの大半は学校（職場）生活に費やされているが、このような生活に対する顧問教師の意識は、表15にみるように、教師生活に「非常に」「どちらかといえば」満足している顧問教師は約59%であり、「不満足」なもの

表15 教師生活満足度 (Q55)

	％
1. 非常に満足	9.7
2. どちらかといえば満足	49.5
3. どちらともいえない	19.0
4. どちらかといえば不満足	19.0
5. 非常に不満足	2.4
DK, NA	0.3
実 数	289

表16 「仕事」と「家庭・趣味」のどちらに生きがいを感じるか (Q56)

	％
1. 仕事の方	21.8
2. どちらかといえば仕事の方	46.4
3. どちらにも同じくらい	26.0
4. どちらかといえば仕事以外の方	2.4
5. 仕事以外の方	2.1
6. どちらにも感じない	1.4
実 数	289

表17 顧問運動部の活動の実態

実数	学 期 中															
	放 課 後										早 朝 (始業前)					
	平 日				土 曜 日						し た				しな か っ た	
	1. 1時間未満	2. 2時間未満	3. 3時間未満	4. 4時間未満	1. 1時間未満	2. 2時間未満	3. 3時間未満	4. 4時間未満	5. 5時間未満	6. 5時間以上	1. ほとんど毎日	2. 週2~3日	3. 試合・大会の前	4. その他		
春夏期	289	5.9	69.6	23.5	1.0	—	25.3	41.9	19.7	10.4	2.4	39.4	10.0	19.4	4.2	27.0
秋冬期	289	64.7	33.9	0.7	—	7.3	40.5	39.4	9.0	2.4	—	73.0				

(注) 「休暇中」以外はDK, NAを除くので100.0%にならない項目もある。

は約21%である。そして、表16にみるように、顧問教師の約68%は、「家庭や趣味」よりも「仕事」の方に生き甲斐を感じている。しかし、未婚者は既婚者に比較して「仕事以外」に生き甲斐を感じたり、「どちらにも(生き甲斐を)感じない」ものが多い(資1:P<0.01)

(3) 運動部活動の実態と顧問教師の指導行動

既述したように、中学校における運動部活動はここ数年過熱気味であるといわれている。そこでまず、運動部活動の状況をみてみよう。

① 運動部活動の状況

部活動は、一般に授業後に行われる教育活動を指すことが多いが、表17にみるように、学期中の放課後の運動部活動の時間は、平均すれば平日の春夏期で2時間位、秋冬期で1時間位。また、土曜日では春夏期で3時間位、秋冬期で2時間半位と推定される。しかし、最近の中学校での運動部活動は単に授業後ばかりでなく、始業前や休日・休暇中にも盛んに行われているのが実状である。まず、始業前のいわゆる「早朝練習」についてみると、 $\frac{3}{4}$ 近くの73%の顧問運動部が活動を行っている。そして、早朝練習を「ほとんど毎日」行っている運動部は約39%である。また、日曜日や祝祭日などの「休日の活動」を「1年中ほとんど」行っている運動部は約33%であり、「公式の大会」のみ参加(活動)の運

\* 本調査の対象者は、1校1部1名ではないが、回答者の約半数が「1部1顧問」(資2:○4-4)であることより、回答者の諸属性から判断して、同一校で同一部の顧問教師の複数回答の標本は極めて少ない。したがって、こゝでの数値は凡そ中学校の運動部活動の実態を示しているとみてよい。

(Q10, 11, 12, 13, 15)

—%—

休 日				休 暇 中										合 宿		
1. 1年中ほとんど	2. にもととき 公式の試合(大会)以外	3. 公式の試合(大会)のみ	4. その他	し た										し な か つ た	し な か つ た	
				1. ほとんど毎日	2. 特曜期 定日間の や (56.4)				3. 試大前 合会 の (4.8)			D K ・ N A	し な か つ た			し な か つ た
					1. 9日	2. 14日	3. 19日	4. 24日	5. 29日	6. 30日 以上						
32.9	50.5	15.9	0.7	32.9	2.1	5.5	8.7	14.5	13.8	14.5	2.1	5.9	6.9	93.1		

動部は約16%にすぎない。さらに夏休みや冬休みなどの「長期休暇中の活動」については「ほとんど毎日」活動が約33%、「30日以上」活動が14

.5%である。したがって、半数くの運動部が長期休暇中もかなりの日数部活動を実施しているとみてよい。ただし、「合宿」を行った顧問運動部は6.9%にすぎない。

このように、運動部活動は授業後ばかりでなく、始業前や休日・休暇中にもかなり活発に行われているが、これらの部活動は顧問教師の属性によって若干違いがみられる。まず、学期中の活動時間については、年齢、性、結婚などの属性と関連があり、平日の春夏期(20代=30代>40代=50代,  $P<0.02$ )、土曜日の春夏期(20代=30代>40代=50代)、土曜日の秋冬期(20代=30代>50代=40代, いずれも  $P<0.01$ )では若年教師の、また、土曜日の秋冬期では男教師( $P<0.01$ )や未婚教師( $P<0.02$ )の顧問運動部の活動時間がいずれも長くなっている。さらに、休日の部活動を「1年中ほとんど」やったのは男教師( $P<0.05$ )の、また、長期休暇中に部活動を「行つた」のは40歳代以下の教師( $P<0.05$ )の、いずれも顧問運動部が多くなっている(資1)。

② 顧問教師の部活動指導の実態

つぎに、このような運動部活動に対する顧問教師の指導の実態をみてみよう。

まず、運動部活動で技術指導をしている顧問教師は、表18にみるように、「率先して技術指導をしている」54.7%、「ときどき技術指導をしている」

表18 顧問運動部の技術指導の程度 (Q33)

	%
1. 率先していつも技術指導をしている	54.7
2. ときどき技術指導をしている	35.3
3. 技術指導をしていない	10.0
実 数	289

35.3%であり、技術指導をしない顧問教師は10%にすぎない。運動部活動指導即技術指導ではないにしてもほとんどの顧問教師がなんらかの形で技術指導を行っているともてよい。

つぎに、技術指導の有無に関係なく部活動指導の程度を部活動実施形態（時期）別にみると、図1にみるように、「いつも部活動指導した」り、大会や試合に「いつも引率・指

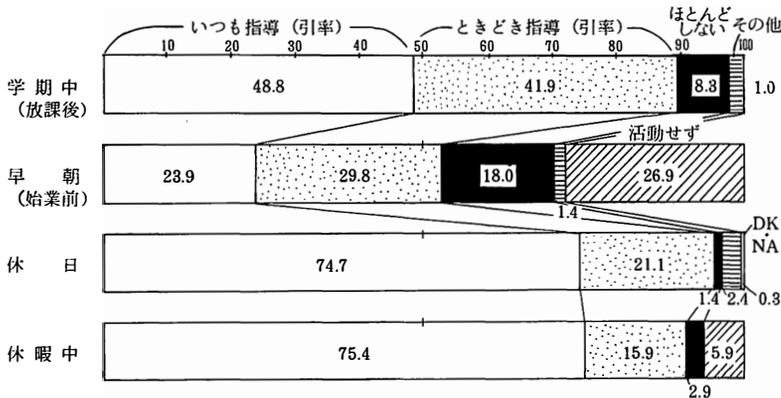


図1 顧問教師の部活動指導の実態 (Q10, 11, 12, 13)

導した」顧問教師は、「学期中」48.8%、「早朝」23.9%、「休日」74.7%、「休暇中」75.4%である。そして、休日（長期休暇中除く）に年間30日以上部活動を指導・引率した顧問教師は約29%にもおよんでいる（資2：Q12-2）。これらの部活動指導の程度は、結婚と関連があり、未婚の顧問教師ほど「早朝」(P<0.01)、「休日」(P<0.02)、「長期休暇中」(P<0.02)の部活動を「いつも指導・引率した」ものが多い（資1）。また、学期中の土曜日の秋冬期の指導時間が年齢と関連があり、2時間30分以上指導したものは30代=20代>40代=50代と若年の顧問教師に多い（資1：P<0.02）。

ところで、顧問教師としての指導は、単に部活動中や試合・大会時だけでなく、部活動

表19 顧問教師の部活動指導以外の部員への指導・助言 (Q26)  
—%—, 実数=289

	した				しない
	いつも積極的に	ときどき	担任や本人から相談を受けた時	その他	
進路指導	8.7	28.0	34.9	1.7	26.6
学業成績指導	14.2	41.5	21.8	1.0	21.5
私生活指導	22.8	43.9	16.6	0.7	15.9

時以外にもおよんでいる。例えば、表19にみるように顧問教師の多くは部員の「私生活」「学業成績」「進路」についても指導・助言を行って

いる。特に「私生活」面については、約 $\frac{1}{4}$ の顧問教師がいつも積極的に指導・助言を行っているが、このことは現在の中学校では「生徒の健全育成」に代表されるような生活指導上の諸問題のいくつかを部活動を通して解決しようとする目標や期待があることの反映とみることができよう。

(4) 運動部活動指導が顧問教師の生活におよぼす影響

(2)(3)でみたように、運動部活動指導は顧問教師の生活の中でかなりのウェイトを占めており、教師の日々の生活や意識に少なからぬ影響を与えていると思われる。

ここでは主として、運動部活動が顧問教師の生活面におよぼしている影響をみてみよう。

表20にみるように、運動部活動の指導によってもっとも影響を受けているのは、「自由時間」であり、ついで「趣味活動の時間や機会」「家庭生活全般」「家族との団らんの機会や時間」「教材の研究・準備の機会や時間」の順となっているが、いずれの項目も半数以上の顧問教師が部活動指導の影響を認めている。なかでも「自由時間」については、

表20 部活動指導が顧問教師の生活におよぼす影響 (Q38)

—%—, 実数=289

	1 かなり犠 牲になっ ている	2 ある程度 犠牲にな っている	3 どちらと もいえな い	4 あまり犠 牲になっ ていない	5 ほとんど 犠牲にな っていない
1. 家庭生活全般が	14.5	45.7	15.2	15.9	8.7
2. 家族との団らんの機会や時間が	13.1	40.5	18.7	17.3	10.4
3. 教材の研究・準備の機会や時間が	6.9	32.2	23.2	27.7	10.0
4. 自由時間が	24.2	38.4	18.3	13.1	5.9
5. 趣味活動の時間や機会が	20.1	38.4	20.4	14.5	6.6

「かなり」「まあ」犠牲になっているものは顧問教師の%近い62.6%にも達している。しかし、教師の仕事の中心である教科指導のための「教材の研究・準備」への影響が比較的少なかったのは、表12でみたように、放課後の主な仕事として、教科指導の準備・点検・整理や教材研究を行う教師が40%近くあること、また、約 $\frac{1}{4}$ の顧問教師の運動部の活動時間が平日の春夏期で2時間未満であること(表17)や学期中の放課後の部活動を「いつも指導している」教師が半数程度であること(図1)、さらに、退勤時刻と部活動の時間との関連からみて部活動指導後に教材研究をしている教師が少なくないと思われることなどの理由によるものと思われる。しかし、これらのことが結果的には顧問教師の「自由時間」や「趣味活動」「家族との団らん」の時間や機会を奪っているものと思われる。

また、運動部活動指導による経済的影響も無視できない。例えば、表21にみるように、

表21 部活動指導のための個人的出費と金額(年間)(Q40)

	％	
出費あり	1万円未満	24.9
	2万円未満	16.6
	3万円未満	11.8
	4万円未満	5.2
	5万円未満	1.0
	5万円以上	6.2
DK, NA	2.1	
出費なし	32.2	
実数	289	

顧問教師の3人に2人が部活動指導のために私費を使っているが、なかでも6.2%の顧問教師は1年間に5万円以上も部活動指導のために出費している。

(5) 運動部活動を取りまく状況

運動部活動指導という行動は、顧問教師の部活動に対する態度や教育理念などの内的要因や運動部員の能力・意欲、家族(特に配偶者)の理解、顧問教師を取りまく学校長・同僚教師・父兄・スポーツ団体関係者などの部活動に対する期待や関心のような外的要因によっても強く規定されていると考えられる。このような顧問教師の指導行動を規定する諸要因の詳細な分析は別稿に論述するとして、ここでは、部活動を取りまくこれらの状況のいくつかを取り上げてみよう。

① 運動部活動に対する周囲の期待や関心

顧問運動部の活動の活発化や対外試合(大会)での成績は、顧問教師の部活動に対する意識・態度や指導行動と強い関連をもっているとみてよい。そこで、顧問教師を取りまくさまざまな人びとの顧問運動部に対する態度を顧問教師自身がどのように認知しているのかをみると、表22にみるように、顧問教師の多くは顧問運動部の活発化や競技力向上に対する周囲の人びとの期待や関心は全般的にかなり高いと認知している。なかでも強い

表22 顧問運動部の活発化・競技力向上に対する期待・関心(Q25)

—％— 実数=289

	1 かなり強い 期待と関心 をもっている と思う	2 もっている 方だと思 う	3 どちらと もいえな い	4 もってい ない方だ と思う	5 期待や関心 は全くもっ ていないと 思う	6 わから ない
1. 学 校 長	27.3	47.1	17.0	4.8	1.7	1.7
2. 同 僚 の 先 生	13.8	40.8	33.2	9.7	1.4	0.7
3. 一 般 の 生 徒	14.5	42.2	31.5	6.9	3.1	1.4
4. P T A	15.6	39.8	30.4	4.8	3.1	5.9
5. 部 員 の 父 兄	35.3	40.8	17.3	3.5	0.7	2.1
6. 地 域 の 人 び と	10.7	29.8	35.3	7.3	4.2	12.5
7. スポーツ団体の関係者	19.4	32.2	22.1	2.4	1.7	21.8

(注) DK, NAを除くので100.0%にならない。

期待と関心をもっているものは、「部員の父兄」の35.3%がもっとも高く、ついで「学校長」27.3%、「スポーツ団体関係者」19.4%となっている。同僚教師や一般の生徒よりも学校長の期待や関心の強いことが注目されるが、このことは一方では、顧問教師が部活動指導にかなりのエネルギーを費やしている要因の一つになっているものと思われる。

② 家族の理解

(2)(3)でみたように、顧問教師の帰宅時刻は遅く、その上、休日や休暇中も部活動指導や試合・大会のために家を空けることが多い。そのため表20でみたように顧問教師の「家庭生活全般」にわたって、また、「家族との団らんの機会や時間」がかなり犠牲になっている。このことはある面で、家族特に配偶者にかなりの負担と犠牲を強いているのではないかと思われるが、表23にみるように80%近くの配偶者が顧問教師の部活動指導によってもたらされる種々の影響に理解を示しており、「無理解」「あきらめている」ものは約13%にすぎない。顧問教師の多くが学校に遅くまで居残り、「家庭・余暇」よりも「仕事」に生き甲斐を感じ、「運動部活動指導」にも多くの労力を費やしている背景にはこのような配偶者の深い理解もその一因となっていると思われる。

表23 顧問教師の部活動指導に対する  
家族（配偶者）の理解（Q39）

	%
1. 非常に理解がある	15.6
2. どちらかといえば理解がある方	62.7
3. どちらともいえない	9.0
4. どちらかといえば無理解の方	4.2
5. 非常に無理解	—
6. あきらめている	8.5
実 数	212

(注) 実数は「未婚・離死別」、「その他」を除く。

(6) 運動部の活動や指導に対する  
顧問教師の意識や態度

人びとの具体的・個別的な行動は、個人の客観的な存在状況によってばかりでなく、その個人の体系化された意識のあり方によっても規定される。そこで最後に、いくつかの項目から顧問教師の部活動や部活動指導に対する意識や態度をみてみよう。

① 運動部活動の教育的効果に対する価値態度

部活動に対する価値態度は顧問教師の部活動指導行動を規定する内的要因の一つと考えてよいが、運動部活動の教育的効果に対する顧問教師の価値態度は、表24にみるように、きわめて好意的であり、いずれの項目にも否定的反応を示すものは皆無に近い。特に、「心身の健康の増進」「教師と生徒の人間関係の向上」については70%以上の顧問教師がその効果を積極的に肯定するなど、全般的に運動部活動の教育的効果を高く評価している。そして、この価値態度は「心身の健康の増進」を50歳代教師が高く評価（50代>40代=20

表24 運動部活動の教育的効果に対する価値態度 (Q46)

	—%— 実数=289				
	1	2	3	4	5
	全くその通り	そんな気もする	どちらともいえない	そんなことはないような気がする	そんなことは全くない
1. 運動部活動は、教師と生徒との人間関係を高めるのに役立つ	70.6	26.6	2.8	—	—
2. 運動部活動は、生徒が学校生活を楽しむのに役立つ	61.9	31.1	5.9	0.7	0.3
3. 運動部活動は、生徒の心身の健康を増進するのに役立つ	74.4	20.4	5.2	—	—
4. 運動部活動は、公正心、責任感、秩序ある態度を育てるのに役立つ	61.6	26.0	11.8	0.3	0.3
5. 運動部活動は、生徒の愛校心や連帯感を高めるのに役立つ	46.7	33.6	17.0	2.1	0.7
6. 運動部活動は、集団生活のしかたを学ぶのに役立つ	59.9	28.7	10.4	1.0	—
7. 運動部活動は、生徒の非行化を防ぐのに役立つ	50.5	32.5	14.9	1.4	0.7
8. 運動部活動は、生徒の運動欲求を充足させるのに役立つ	56.7	33.6	9.7	—	—

代、 $P<0.01$ )する傾向があるものの、他の項目に関しては、年齢、性、結婚による差はみられない。

② 運動部活動と人間形成

表25 部活動での人間形成は「勝利志向」と「楽しみ志向」のどちらが役立つか (Q47)

実数=289

	A. 勝利志向		B. 楽しみ志向		D K · N A
	積極的	消極的	消極的	積極的	
	「運動部活動では、運動を楽しむことよりも試合に勝つことに重点を置いて指導した方が、苦しい練習に耐え、それを通して人間形成に役立つ面が大きいと思う」		「運動部活動では、試合に勝つことよりも、運動を楽しむことに重点を置いて指導した方が、かえって望ましい人間形成に役立つ面が大きいと思う」		
	15.2	47.8	28.0	8.0	
%	63.0		36.0		1.0

このように、運動部活動に対する顧問教師の価値態度はきわめて好意的であるが、教育活動としての部活動の究極の目的である人間形成は、どのような部活動によって達成されると考えているであろうか。ここでは、運動部活動の具体的な活動目標を「勝利志向」と「楽しみ志向」の2つに分け、どちらの目標を志向する部活動が人間形成により役立つと考えているかをさぐ

ってみた。表25にみるように、顧問教師の63%が「勝利志向」を支持し、勝利を目指した苦しい練習のプロセスのなかに人間形成に役立つ面があると考えている。1年中運動部活動指導に精励している顧問教師の多くには、このような「勝利志向＝苦しい練習＝人間形

成」という態度パターンが形成されているかも知れない。また、こうした態度形成には顧問教師の過去のスポーツ経験が強く関与しているものと思われる。

③ 部活動指導と教科指導

表13, 14でみたように、顧問教師は部活動指導に学校で費やすエネルギーの¼を投入している。また、約25%の顧問教師が教科指導と同等かそれ以上のエネルギーを部活動指導に配分している。そこで、表26にみるように、顧

表26 部活動指導と教科指導のどちらに「やり甲斐」を感じているか (Q53)

	%
1. 部活動指導	5.9
2. どちらかといえば部活動指導	9.7
3. どちらにも同じくらい	43.9
4. どちらかといえば教科指導	23.2
5. 教科指導	15.9
6. どちらにも感じない	0.7
7. その他	0.7
実数	289

問教師が部活動指導と教科指導のどちらにやり甲斐を感じているかをみると、部活動指導 > 教科指導型15.6%、部活動指導 = 教科指導型43.9%、部活動指導 < 教科指導型39.1%となっており、部活動にも教科にもやり甲斐を感じている教師がもっとも多いが、このやり甲斐と年齢、性、結婚等の属性との間には有意な関連はみられない。

④ 運動部活動の社会体育への移行

教師の過重負担や部活動中の事故の責任の所在等をめぐって、一時運動部活動を学校教育外の活動として位置づけ、社会教育に移行することの是非が盛んに論議された。そして、各地でさまざまな部活動が試行された。その後、学習指導要領の改正によって学校の行う教育活動の一つとして位置づけられるようになったが、これに対する顧問教師の態度は、表27にみ

表27 部活動の振興は「社会教育」と「学校教育」のどちらがよいか (Q47)

実数=289

	A. 社会教育で振興		B. 学校教育で振興		D K . N A
	積極的 肯定	消極的 肯定	消極的 肯定	積極的 肯定	
	「運動部活動はクラブ活動とちがって教育課程外の活動であり、教師の負担も大きいので社会教育に移行して振興した方がよい」		「確かに運動部活動は教師の負担が大きいし、活動中の事故の責任などの問題もあるが、それ以上に教育的意義が高いので、あくまで学校の教育活動として振興した方がよい」		
%	8.7	17.6	43.9	29.4	0.3

るように、約73%の顧問教師がいくつかの問題点を認めながらも運動部活動を学校の教育活動として振興した方がよいと考えており、部活動の社会体育化志向を支持する顧問教師は1/4程度にすぎない。

#### ⑤ 運動部活動指導に対する周囲の人びとの評価の自己認知

一般に他者の評価（承認）は個人の行動を規定する重要な要因の一つである。ここで

表28 部活動指導に対する評価の自己認知（Q44）

—%— 実数=289

	1 十分認 めている ように 思う	2 少しは認 めている ように 思う	3 どちらと もいえな い	4 あまり認 めてい ないよ うに 思う	5 全く認 めてい ないよ うに 思う	6 わから ない
1. 学 校 長	20.8	40.8	22.1	10.0	1.4	4.5
2. 同 僚 の 先 生	14.5	46.4	22.1	10.4	2.1	4.2
3. 一 般 の 生 徒	17.0	43.3	24.9	6.6	1.4	6.6
4. P T A	11.1	30.4	29.8	7.6	2.4	18.3
5. 部 員 の 父 兄	19.4	39.1	20.8	7.3	2.1	11.1
6. 地 域 の 人 び と	8.0	19.0	34.9	4.5	3.5	29.8
7. スポーツ団体の関係者	9.7	24.9	29.1	5.2	2.1	28.7

(注) DK, NAを除くので100.0%にならない。

は、顧問教師の部活動指導に対する周囲の人びとの評価について顧問教師自身がどのよう

に認知しているかについてみると、表28にみるように、顧問教師は学校長、同僚教師、一

般の生徒、部員の父兄の約6割が、自分たちの部活動指導の価値を認めている、と自己認知している。一般に顧問教師の多くは、自分たちの指導行動を周囲の人びとが比較的高く評価している、と考えているとみてよい。

⑥ 運動部活動に対する満足度

生徒（部員）の運動能力や活動意欲それに部活動に対す

表29 運動部の部員や競技成績に対する満足度（Q41, 42）

—%—

	部員の能力・意欲・態度などに	1年間の競技成績に
1. 非常に満足	2.1	4.2
2. どちらかといえば満足	24.9	26.0
3. どちらともいえない	18.7	13.8
4. どちらかといえば不満足	46.4	44.6
5. 非常に不満足	6.9	10.7
6. わからない	1.0	0.7
実 数	289	289

る態度のほか、指導の成果の認知などは、顧問教師の指導意欲を規定する要因の一つと考えられるが、表29にみるように、半数以上の顧問教師が、部員の能力・意欲・態度や競技成績に不満を感じており、満足しているものは30%程度にすぎない。

⑦ 運動部活動指導に対する意識・態度

ところで、顧問教師は部活動指導の際どのような意識をもって指導にあたっているのだろうか。表30にみるように、生き甲斐型（「生き甲斐をととても感じて指導」23.2%）、楽しみ型（「生き甲斐はそれほど感じないが楽しく指導」51.9%）教師が全体の¾を占め

表30 部活動指導意識（Q48）

		％
1. 生き甲斐型	「生き甲斐をととても感じて指導している」	23.2
2. 楽しみ型	「生き甲斐はそれほど感じないが楽しく指導している」	51.9
3. 義務型	「生き甲斐も楽しみもそれほど感じないが、顧問の義務だと思って指導している」	19.0
4. 校務型	「あまり気がすすまないが、校務なので仕方なく指導している」	4.2
	そ の 他	1.7
実 数		289

ており、義務型（「生き甲斐も楽しみもそれほど感じないが、顧問の義務だと思って指導」19.0%）、校務型（「あまり気がすすまないが、校務なので仕方なく指導」4.2%）の比較的消極的な顧問教師は全体の¼以下である。

つぎに、運動部活動指導に対する顧問教師の態度を、表31にみるような8つの意見に対する反応結果からみてみよう。

運動部活動指導が「自分の生活にハリと生き甲斐を与えてくれる」とするものは61.3%、「趣味の一つである」とするものは60.6%、「奉仕活動」とするものは51.5%、「教師として当然の義務」とするものは56.8%であり、これら4つの意見に対しては肯定的態度を示すものが半数を超えている。これに対して、運動部活動指導が「教師としての力量を発揮」したり、「強い選手やチームを育てたいという夢の実現」の絶好の場の一つであるとするものは約35%であるが、後者の意見に対してはわずかではあるが否定的態度を示すものが多い。そして、部活動指導が「余りにも負担の大きい仕事」であったり、「社会

表31 部活動指導に対する態度 (Q45)

—%— 実数=289

	1 全くその 通り	2 どちらか といえば そうだ	3 どちらと もいえな い	4 どちらかと いえばそん なことはない	5 そんなこ とは全く ない
1. 私にとって、顧問運動部の指導は、自分の生活にハリと生きがいを与えてくれるものである	18.7	42.6	26.0	7.6	5.2
2. 私にとって、顧問運動部の指導は、自身の趣味の一つである	20.1	40.5	16.3	13.5	9.7
3. 私にとって、顧問運動部の指導は、奉仕活動である	20.4	31.1	26.3	13.1	9.0
4. 私にとって、顧問運動部の指導は、教師として当然の義務である	22.5	34.3	27.7	8.7	6.9
5. 私にとって、顧問運動部の指導は、教師としての力量を発揮する絶好の場の一つである	11.4	23.2	36.0	15.2	14.2
6. 私にとって、顧問運動部の指導は、余りにも負担の大きい仕事である	5.9	19.0	33.2	27.7	14.2
7. 私にとって、顧問運動部の指導は、強い選手やチームを育てたいという私の夢を実現するための絶好の場である	10.7	24.6	27.0	20.1	17.6
8. 私にとって、顧問運動部の指導は、徭的稱譽を受けるのに役立つ絶好の場の一つである	1.7	5.5	26.0	17.6	49.1

的信用や名譽を受けるのに役立つ」絶好の場であるという意見に対しては否定的態度を示すものが多いが、この傾向は特に後者の意見に顕著である。これら8つの意見と年齢との間には有意な関連はみられないが、運動部活動指導が「趣味の一つ」であるという意見に対して女教師は男教師に比して否定的態度を示すものが多い（資1:P<0.05）。逆に「奉仕」に対しては肯定的態度を示すものが男教師に（資1:P<0.05）、また、未婚者より既婚教師に多い（資1:P<0.02）。さらに、「強い選手やチームを育成したいという夢の実現」の場に積極的肯定的態度を示すものは未婚教師に多い（資1:P<0.05）。

#### 4. 結 語

以上、きわめて大雑把ではあるが、中学校の運動部顧問教師の生活と意識の実態を多角的かつ個別的に分析し概観した。紙数の制約もあって調査結果の1部を羅列的に記述するにとどめざるを得なかったにもかかわらず、中学校の運動部顧問教師の生活と意識のアウトラインをある程度素描できたように思う。

以下、小稿で明らかになった点のいくつかを要約して結語にかえたい。

① 顧問教師のスポーツ愛好の程度は、年齢、性、結婚などの属性と関係なく、全般に極めて高い。また、スポーツ経験についても約82%の教師が学校時代に運動部加入経験をもつとともに、部活動を活発に行っており、運動部顧問教師としての運動資質はこの点からみる限りかなり秀れているとみてよいだろう。

② しかし、こうした資質をもっているにもかかわらず、部活動指導に自信をもっていない顧問教師が半数以上もあること、また、この傾向が20歳代や女性教師に特に顕著であることが注目される。部活動指導能力の向上と自信は、豊富なスポーツ経験と高い運動技能のほかに（あるいは別に）、顧問教師としての日常の研修と実践活動を通して函養されるものであろう。また、近年女教師が増加しつつあるが、運動部活動が学校の教育活動として位置づけられ、その機能が益々重要になってきているだけに、指導能力向上のための積極的な自己研修が期待されよう。

③ 顧問教師の日々の生活は、学校（仕事）中心に展開されている。そして、授業後の仕事として運動部活動の占める割合は大きい。特に未婚者や20・30歳代教師の大半は部活動指導が第1の仕事となっている。そのため退勤時刻も一般に若年教師ほど遅い。

④ 運動部活動の指導程度については、土曜日の秋冬期の指導時間を除いて、年齢、性、結婚などの属性による差はみられない。しかし、早朝や休日や休暇中の部活動を「いつも指導する」ものは未婚教師に多い。運動部活動への情熱のほかに「独身」という身軽さが指導のための諸条件を比較的容易につくり出せるからであろう。

⑤ 部活動指導による影響については、半数以上の顧問教師が、自由時間、趣味、家庭、家族との団らん、教材研究などが犠牲になっていると答えているが、特に自由時間の犠牲度がもっとも強い。しかし、家族特に配偶者の約80%は顧問教師の部活動指導による家庭（族）への種々の影響に深い理解を示している。

⑥ 顧問教師の多くは、顧問運動部の活動の活発化や競技力向上に対し、学校長、PTA、部員の父兄などが強い関心と期待をもっていると認知している。

⑦ 運動部活動の教育的効果に対する顧問教師の価値態度はきわめて好意的である。そして、運動部活動を社会教育に移行するのではなく学校教育の中で積極的に振興した方がよいと考えている。また、部活動の究極的目的である人間形成には、「楽しみ志向型」よりも「勝利志向型」部活動の方が寄与する面が大きいと考えているが、この考え方はややもすると勝利志向＝苦しい練習＝人間形成という一面的なパターンと短絡的に結びつきやすい。この点についてはさらに詳細な分析を試みたい。

⑧ 年齢、性、結婚などの属性に関係なく、顧問教師の約60%は、教科指導と同じくらいにあるいはそれ以上に運動部指導にやり甲斐を感じている。

⑨ しかし、運動部活動指導に対する顧問教師の意識や態度は複雑である。つまり、部活動指導を教師として当然の「義務」と考える一方で、それを「趣味」や「奉仕活動」と考えたり、さらに、教師としての「力量発揮」や強い選手・チームを育成したいという教師個人の「夢の実現」の場として部活動をとらえる顧問教師もいるなど、その意識や態度は多様である。

このような運動部顧問教師の生活体系や意識構造、さらに運動部活動指導行動を規定する要因やその全体的構造については稿を改めて論ずる予定である。

#### 付 記

本調査の実施にあたり、各都道府県中学校体育連盟をはじめ調査対象地の教育委員会や調査にご協力いただいた中学校の運動部顧問の先生方に心よりお礼を申し上げます。

また、調査や結果の集計処理にあたり、藤田匡肖（三重大学教授）、坪田暢允（名古屋学院大学助教授）、川西正志、山本秀人（中京大学研究員）、鈴木文明（名古屋大学研究員）の諸氏に格別のご協力をいただいたことに対し深謝します。

なお、本調査の統計的処理は名古屋大学大型計算機センターを利用して行った。

付録資料 1

項目別・属性別の有意差検定（一部）  
 ——「カイニ乗検定」及び「2つの比率の差の検定」——

属性		年齢	性	結婚	( ) = %
① 顧問運動部のスポーツの愛好 運動能力に関するもの ② 指導能力自信	※	20歳代 > 50歳以上 (50%) (34%)	—	—	「とても好き」
	※	40 = 50 > 30 > 20 (60) (58) (45) (28)	※※※男 > 女 (47)(22)	—	「かなり自信がある」 (+) 「まあ自信がある方」
③ 1日のエネルギーの配分(家庭) ④ 1日のエネルギーの配分(自分の 余暇) ⑤ 学校でのエネルギーの配分(部活) ⑥ 学校でのエネルギーの配分(校務) ⑦ 学校でのエネルギーの配分 — 部活指導と教科指導 —	—	—	—	※※※ 未婚 < 既婚 (12) (42)	「3割以上」
	—	—	—	※※※ 未 > 既 (22) (7)	「3割以上」
	※※※ 20 > 40 = 30 = 50 (29) (12) (11) (8)	—	—	※※※ 未 > 既 (32) (12)	「4割以上」
	※ 20 + 30 < 40 + 50 (29) (42)	—	—	—	「4割以上」
	※ 20 + 30 > 40 + 50 (15) (6)	—	—	※※※ 未 > 既 (40) (20)	年齢：「部活 > 教科」 未既婚：「部活 ≥ 教科」
生活行動に関するもの					

	<p>⑧ 退勤時刻 (春夏期)</p> <p>⑨ 退勤時刻 (秋冬期)</p> <p>⑩ 放課後の仕事 (1位)</p>	<p>※※※ 20 &gt; 30 &gt; 40 &gt; 50 (39)(27)(13)(3)</p> <p>※※※ 20 = 30 &gt; 40 &gt; 50 (42)(36)(19)(8)</p> <p>※※※ A: 20 = 30 &gt; 40 &gt; 50 (50)(51)(35)(21) B: 20 = 30 &lt; 40 &lt; 50 (13)(19)(36)(50)</p>	<p>—</p> <p>※ 男 &gt; 女 (17)(6)</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>A: 未 &gt; 既 (58)(38)</p> <p>※</p> <p>B: 未 &lt; 既 (16)(28)</p>	<p>「7時30分」以後</p> <p>年齢:「6時30分以後」 性:「7時以後」</p> <p>A:「部活動指導」</p> <p>B:「校務関係」</p>
<p>部活動に関するもの</p>	<p>⑪ 部活動の時間(平日-春夏期)</p> <p>⑫ 部活動の時間(土曜-春夏期)</p> <p>⑬ 部活動の時間(土曜-秋冬期)</p> <p>⑭ 休日の部活動</p> <p>⑮ 休暇中の部活動</p>	<p>※※ 20 = 30 &gt; 40 = 50 (31)(29)(17)(8)</p> <p>※※※ 20 = 30 &gt; 40 = 50 (19)(18)(2)(0)</p> <p>※※※ 20 = 30 &gt; 50 = 40 (16)(16)(3)(2)</p> <p>—</p> <p>※ 40 = 20 = 30 &gt; 50 (97)(96)(95)(84)</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>※※※ 男 &lt; 女 (6)(22)</p> <p>※ 男 &gt; 女 (36)(14)</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>※※ 未 &gt; 既 (23)(8)</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>「2時間以上」</p> <p>「4時間以上」</p> <p>年齢,結婚:「3時間以上」 性:「1時間未満」</p> <p>「1年中ほとんど活動」</p> <p>部活動を「した」</p>

属性		年齢	性	結婚	
部活動指導に関するもの	⑩ 指導時間（土曜～秋冬期）	※※ 30 = 20 > 40 = 50 (38) (34) (19) (11)	—	—	「2時間30分以上」
	⑪ 早朝の部活動の指導	—	—	※※※ 未 > 既 (54) (27)	「いつも指導」
	⑫ 休日の部活動の指導・引率	—	—	※※ 未 > 既 (86) (73)	「いつも指導・引率」
	⑬ 休暇中の部活動の指導	—	—	※※ 未 > 既 (91) (75)	「いつも指導」
部に活動するもの効果	⑭ 心身の健康の増進	※※※ $\left. \begin{array}{l} 30 > 20 \\ (80) (65) \\ 50 > 40 = 20 \\ (90) (71) (65) \end{array} \right\}$	—	—	「積極的肯定」
部活動の指導の	⑮ 学校長	—	—	※※ 未 < 既 (10) (25)	「十分認めている」
	⑯ P T A	※※※ 50 = 30 = 40 > 20 (58) (49) (45) (25)	※※※ 男 > 女 (45) (17)	※ 未 < 既 (27) (47)	「十分」+「少し」認めている
	⑰ 地域の人々	—	—	※ 未 < 既 (27) (47)	「十分」+「少し」認めている

部意識・活動態度に関するもの 指導に対するもの	趣味の1つ	—	※ 男<女 (21)(42) ※ 男>女 (54)(36)	— ※※ 未<既 (36) (58) ※※ 未>既 (16) (9) ※※※ 40+50<20+30 (1) (8)	— ※※※ 未>既 (14) (3)	「否定的反応」 「肯定的反応」 「積極的肯定的反応」 「仕事以外」「どちらにも感じない」
㉔	趣味の1つ	—	※ 男<女 (21)(42)	—	—	「否定的反応」
㉕	仕事	—	※ 男>女 (54)(36)	※※ 未<既 (36) (58)	※※ 未>既 (16) (9)	「肯定的反応」
㉖	強い選手・チームの育成という夢の実現	—	—	—	—	「積極的肯定的反応」
㉗	生き甲斐 (仕事か仕事以外か)	※※※ 40+50<20+30 (1) (8)	—	※※※ 未>既 (14) (3)	—	「仕事以外」「どちらにも感じない」

注 1. 表の見方(例)、①の「顧問運動部のスポーツの愛好」は、現在顧問をしている運動部のスポーツの好き嫌いの程度は年齢により有意の差( $\chi^2$  testで危険率5%以下)がある。特に「とても好き」なものについてみると20歳代教師50%、50歳以上34%で両者の間に差がみられる(2つの比率の差の検定)。

2. 表中の※はカイ二乗検定により有意差のあることを示し、※…P(危険率)<0.05, ※※…P<0.02, ※※※…P<0.01を表す。

3. 表中の( )の数字はパーセントを示す。但し、DK, NAを除く分母(標本)に対する割合であるので、単純集計の値と異なるものがある。

4. 表中の不等号は「2つの比率の差の検定」により、5%水準(片側危険率)で有意差のあることを示す。

付録資料 2

調査票および回答の単純集計 (%) — 中学校 — (注)

整理番号				
------	--	--	--	--

中・高等学校の運動部顧問教師の生活と意識に関する調査

記入上 の お 願 い

1. 質問に回答項目がある場合は、あてはまる数字を○でかこんでください。
2. ( ) や [ ] のなかには、その内容をできるだけ具体的に記入してください。
3. この調査でいう運動部とは、いわゆる課外活動として行われている部活動のことで、教育課程としてのクラブ活動(必修)とは異なりますので、回答の際に十分注意してください。

まず、先生の学校の部活動のことからおききます

- Q 1.** 先生の学校では、部活動は全員参加制ですか、それとも自由参加制ですか。  
 1. 全員参加制(45.0)    2. 1部学年( 年)のみ全員参加制(2.4)  
 3. 自由参加制(52.2)    4. その他(0.3)
- Q 2.** 部活動とクラブ活動との関連はどのようになっていますか。  
 1. 部活動とクラブ活動と一本化している(36.3)  
 2. 部活動とクラブ活動とを分けている(63.0)    3. その他(0.7)
- Q 3.** 運動部活動の顧問教師はどのような方法で決められていますか。  
 1. 教師の希望どおり決める(11.8)    2. 教師の希望をとり、相互に調整して決める(85.5)  
 3. 教師の希望をとらずに決める(1.4)    4. その他(1.0)    DK, NA(0.3)
- Q 4.** 先生が、現在、顧問をされている運動部はつぎのどれですか。  
 1. 硬式野球(中学・軟式)部    2. 剣道部    3. バレーボール部    4. 陸上競技部

表 1 参照

- SQ 1.** 現任校でこの運動部の顧問になって、この4月でなん年になりますか。( )年
- SQ 2.** 先生は、現任校以外でもこの運動部の顧問をされていた経験がありますか。  
 1. 以前の学校でこの運動部の顧問を経験した→経験年数( )年(51.9)  
 2. 以前の学校ではこの運動部の顧問を経験しなかった(21.1)  
 3. 現任校が教師として最初の学校である(27.0)

(%)

	～4年	～9年	～14年	～19年	～29年	30年以上	DK,NA
現任校での経験年数(SQ1)	69.9	27.7	1.7	0.3	—	—	0.3
総経験年数(SQ1+SQ2(1))	40.5	30.1	10.7	6.6	10.0	1.4	0.7

**SQ3.** 上記の運動部のうち、顧問をされている運動部は男子と女子のどちらですか。

1. 男子部 (42.9)      2. 女子部 (20.4)  
3. 男子と女子の両部 (36.7)

**SQ4.** この運動部の顧問教師は、先生お1人ですか (実習助手や事務職員の方は除く)。

1. 自分1人だけ (54.7)      2. 2人 (37.4)  
3. 3人 (6.6)      4. 4人以上 (1.4)

**Q5.** 先生は、顧問として、この運動部活動の技術的指導をされていますか。

1. 技術的指導をしている

2. 技術的指導はしていない

**SQ1.** 先生以外にも技術的指導をしている人がいますか

1. いる      2. いない

**SQ2.** それでは技術的指導をしている人がいますか

1. いる      2. いない

**SQ3.** では、主にどちらの方が技術的指導をする場合が多いですか。

1. 自分の方が多い      2. 同じ位      3. 自分以外の方が多い

**SQ4.** その人はどんな人ですか (あてはまるもの全てを○でかこんでください)

1. 教頭      2. 教諭      3. 実習助手      4. 事務職員      5. 専任講師      6. 非常勤講師  
7. その他

(技術指導)	(自分以外に)	どちらが多いか	%
している	{ いない いる	{ 自分の方 同じ位 自分以外の方 DK, NA	56.7
			14.9
			8.7
			8.3
			33.2
			90.0
していない	{ いる いない		6.6
			3.5
			10.0

(注) SQ4 略

**Q6.** 先生はQ4の硬式(軟式)野球、剣道、バレーボール、陸上競技の4つの運動部以外の部活動の顧問を兼務されていますか。

1. 兼務している (5.9)      2. 兼務していない (94.1)

**SQ1.** その部活動は、運動(体育)部ですか、それとも文化部ですか

1. 運動部 (3.5)      2. 運動部と文化部の両方 (0.3)      3. 文化部 (2.1)      4. その他(一)

**SQ2.** では、兼務している部活動とQ4の運動部活動のどちらに力点を置いて指導されていますか

1. 硬式(軟式)野球、剣道、バレーボール、陸上競技部の方に、力点を置いて指導している (3.8)      2. 硬式(軟式)野球、剣道、バレーボール、陸上競技部以外の運動部の方に、力点を置いて指導している (0.7)      3. むしろ文化部の方に、力点を置いて指導している (0.7)      4. どちらの運動部にも同じくらいの力点を置いて指導している (0.7)  
5. いずれの部活動もほとんど指導しない(一)      6. その他(一)

以下の質問では、先生が直接、部活動の指導をされている、されていないに関係なく、前記Q4の硬式(軟式)野球部、剣道部、バレーボール部、陸上競技部のうち、先生が顧問をされている運動部のことについておききます。したがって以下の文中ではこの4つの運動部を顧問運動部と表現しますので、これらの運動部以外の部活を兼務されている先生は回答の際に十分注意してください。

Q7. 顧問運動部の部員数は、学年はじめの55年5月ごろなん人でしたか、男子部と女子部の両方の顧問をされている場合は、その他のところで男・女別に記入してください。

1. ~9人(2.1) 2. ~19人(14.9) 3. ~29人(20.4) 4. ~39人(17.3)  
 5. ~49人(19.0) 6. 50人以上(24.2) 7. その他 DK, NA(2.0)  
 (注「その他」の回答は、男女の合計数で1~6に入れてある)

Q8. 顧問運動部の活動のための施設(グラウンドやコートや道場など)は十分ありますか。

1. 学内の施設で十分できる(27.7) 2. 学外にある学校の施設で十分できる(1.4)  
 3. 他部と合同で十分できない(41.2) 4. 施設が狭くて十分できない(26.0)  
 5. その他(3.5) DK, NA(0.3)

Q9. 運動部活動のための時間は、学校で決められていますか。

1. 顧問の指導の有無に関係なく決められている(91.0)  
 2. 顧問が指導しない場合だけ決められている(7.6)  
 3. 決められていない(0.7) 4. その他(0.7)

→SQ1. 決められた部活の終了時刻(下校時刻)はなん時ですか→夏時間(時分)、冬時間(時分)

→SQ2. では、決められた時間内で、先生は顧問運動部の目標どりの部活動指導が十分できますか。

1. 十分できる(2.4) 2. なんとかできる(28.4) 3. 少しできない(41.2)  
 4. 全くできない(10.7) DK, NA(15.9) 該当せず(1.4)

	1. ~4.29	2. 4.30~	3. 5.00~	4. 5.30~	5. 6.00~	6. 6.30~	7. 7.00~	DK NA	該当せず
夏時間	—	0.3	4.5	23.5	35.3	14.5	4.2	16.3	1.4
冬時間	2.1	48.1	27.0	3.5	1.0	—	—	17.0	1.4

Q10. この一年間、授業のある期間の顧問運動部の活動時間は、平均すると1日大体なん時間ぐらいでしたか。

[A] 月~金曜日

- 春夏期(4~9月ごろ) 1. ~1時間未満(5.9) 2. ~2時間(69.6) 3. ~3時間(23.5)  
 4. ~4時間(1.0) 5. 4時間以上(—)  
 秋冬期(10~3月ごろ) 1. ~1時間未満(64.7) 2. ~2時間(33.9) 3. ~3時間(0.7)  
 4. 3時間以上(—) DK, NA(0.7)

[B] 土曜日

- 春夏期 1. ~1時間未満(—) 2. ~2時間(25.3) 3. ~3時間(41.9) 4. ~4時間(19.7)  
 5. ~5時間(10.4) 6. 5時間以上(2.4) DK, NA(0.3)  
 秋冬期 1. ~1時間未満(7.3) 2. ~2時間(40.5) 3. ~3時間(39.4) 4. ~4時間(9.0)  
 5. ~4時間以上(2.4) DK, NA(1.4)

**SQ 1.** では、先生は、これらの運動部活動をどの程度指導されましたか（土曜日も含めて）。

1. 特別の事情がない限り、いつも指導した(48.8) 2. 週3～4日指導した(24.9)  
 3. 週1～2日指導した(17.0) 4. ほとんど指導しなかった(8.3) 5. その他(1.0)

**SQ 2.** 指導されたときは、平均すると1日なん時間くらい指導されましたか

- (A) 月～金曜日の場合 —— 春夏期( )時間位、 秋冬期( )時間位  
 (B) 土曜日の場合 —— 春夏期( )時間位、 秋冬期( )時間位

	30 分 位	60 分 位	90 分 位	120 分 位	150 } 180 分 位	210 分 以 上	DK · NA	指 導 せ ず
平日 { 春夏期	3.1	19.7	14.5	41.2	10.0	0.3	2.8	8.3
{ 秋冬期	24.2	44.3	8.7	9.7	0.7	—	4.2	8.3
土曜 { 春夏期	0.7	4.5	2.4	27.3	33.9	20.1	2.8	8.3
{ 秋冬期	3.4	15.6	3.5	37.0	21.5	6.6	4.2	8.3

**Q11.** 学校によっては、始業前に部活動（早朝練習）をする運動部がありますが、顧問運動部ではこの1年間に始業前の部活動をしましたか。

1. した(73.0) 2. しなかった(27.0)

→ **SQ 1.** 早朝練習はどの程度しましたか

1. ほとんど毎日した(39.4) 2. 週2～3日した(10.0)  
 3. 試合（大会）の前に1週間位した(19.4) 4. その他(4.2)

→ **SQ 2.** では、先生は早朝練習に参加して指導されましたか

1. 特別の事情がない限り、いつも指導した(23.9) 2. ときどき指導した(29.8)  
 3. ほとんど指導しなかった(18.0) 4. その他(1.4)

**Q12.** この1年間、夏休みや冬休みを除いて日曜日や祝祭日などの休日に顧問運動部は活動しましたか。

1. 練習や公式・練習試合（大会）などで、1年中ほとんど休まないで活動した(32.9)  
 2. 公式の試合（大会）に参加した以外にもときどき練習試合や部活動をした(50.5)  
 3. 公式の試合（大会）に参加した以外に、部活動はしなかった(15.9) 4. その他(0.7)

**SQ 1.** 先生は、これらの休日の運動部活動をどの程度指導・引率されましたか

1. 特別の事情がない限り、いつも指導・引率をした(74.7)  
 2. ときどき指導・引率した(19.0) 3. 指導はしたが、引率はしなかった(2.1)  
 4. 指導も引率もほとんどしなかった(1.4) 5. その他(2.4) DK, NA (0.3)

**SQ 2.** この1年間には、冬・夏休みなどの長期休暇中を除いて、約50日ほどの休日がありましたが、先生がこれらの休日に運動部活動のために指導・引率された日数はなん日くらいありましたか。

1. 0日(1.4) 2. ～4日(9.7) 3. ～9日(19.4) 4. ～14日(10.4)  
 5. ～19日(12.5) 6. ～24日(10.7) 7. ～29日(7.3) 8. 30日以上(28.7)

**Q13.** この1年間、冬・夏休みの長期休暇中に公式の試合（大会）への参加を除いて顧問運動部は活動（合宿や練習試合は含む）をしましたか。

1. した                      2. しなかった

→ **SQ 1.** 部活動はどの程度やりましたか

1. ほとんど毎日やった  
 2. 特定の曜日や期間をきめてやった  
 3. 試合や大会のある前にだけやった } 一日数にすると大体なん日位ですか { 夏季 ( ) 日位  
 4. その他                      表 17 参照                      冬季 ( ) 日位

→ **SQ 2.** 部活動の時間は大体どのくらいでしたか

1. 終日やるが多かった (2.4)      2. 午前か午後のいずれか半日 (4~5時間) やることが多かった (46.7)      3. 2~3時間程が多かった (45.0)      4. その他 (-)

→ **SQ 3.** それでは、先生は、これらの運動部活動にどのくらい参加し指導されましたか

1. 特別の事情がない限り、いつも参加して指導した (75.4)  
 2. とまどき参加して指導した (15.9)      3. ほとんど指導しなかった (2.9)  
 4. その他 (-)

**Q14.** この1年間に顧問運動部が参加した公式の試合や大会、練習試合はなん日くらいになりますか。

1. 公式の試合や大会に参加した日数 → 1. ~4日 (26.0)      2. ~9日 (43.9)  
 3. ~14日 (20.1)      4. ~19日 (4.8)  
 5. 20日以上 (5.2)

2. 練習試合をした日数 → 1. ~4日 (25.6)      2. ~9日 (23.5)      3. ~14日 (17.3)  
 4. ~19日 (8.7)      5. ~24日 (4.5)      6. 25日以上 (6.6)  
 7. 0日 (13.5)      DK, NA (0.3)

**SQ 1.** では、先生が、これらの試合や大会に部員を引率して指導されたり、応援されたりした日数はどのくらいになりますか。県内と県外に分けて記入してください。

1. 公式の試合や大会の場合 → 県内 ( ) 日      県外 ( ) 日  
 2. 練習試合の場合                      → 県内 ( ) 日      県外 ( ) 日

	%							
	0日	~4日	~9日	~14日	~19日	~24日	25日以上	DK, NA
県内	—	30.1	45.0	18.0	3.8	1.0	1.4	0.7
県外	85.5	10.0	3.5	0.3	—	—	—	0.7

**Q15.** 顧問運動部は、この1年間に合宿して部活動をしたことがありますか。

1. ある (6.9)                      2. ない (93.1)

→ **SQ 1.** その回数と延日数および時期をご記入ください

( ) 回で、延日数 ( ) 日、時期 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) 月

→ **SQ 2.** では、先生は、この合宿にどのくらい参加して指導されましたか

1. 全部参加して指導した                      2.  $\frac{2}{3}$  くらい参加して指導した  
 3.  $\frac{1}{3}$  くらい参加して指導した                      4. 全く参加しなかった                      5. その他

(注) **SQ 1. 2.** 略

**Q16.** 運動部活動の目標を「試合や大会に参加して勝つこと（良い成績を上げること）」と「勝負は二の次にして、まず、運動を楽しむこと」の2つに分けるとしたら、顧問運動部の運動部員はどちらに力点を置いて部活動をしていると思われますか。

1. 試合に勝つことに力点を置いていると思う (28.7)
2. どちらかといえば運動を楽しむことよりも勝つことに力点を置いていると思う (50.9)
3. どちらかといえば、勝つことよりも運動を楽しむことに力点を置いていると思う (18.3)
4. 運動を楽しむことに力点を置いていると思う (2.1)

**Q17.** 運動部の活動状況を、部員の数、部のまとまり、練習量などから判断すると、顧問運動部の活動状況はつぎのどれにあてはまりますか（競技レベルは除外してください）。

1. かなり活発 (19.0)
2. まあ活発な方 (49.1)
3. どちらともいえない (15.2)
4. 少し不活発な方 (14.2)
5. かなり不活発 (2.4)

**Q18.** 県下の競技レベルを、つぎのように分けるとしたら、顧問運動部の競技レベルは県下でどの辺にあてはまりますか。

1. 上 (8.3)
2. 中上 (23.9)
3. 中 (32.9)
4. 中下 (20.1)
5. 下 (14.9)

**Q19.** ここ2・3年の間に、顧問運動部で団体（チーム）または個人として、ブロック大会（東海・中部）や全国大会に出場したことがありますか。

1. ある (20.1 (全国大会 10.7, ブロック大会 9.3))
2. ない (79.6)
- DK, NA (0.3)

**SQ1.** 主な大会を3つだけ上げ、その大会での成績を記入してください

大会名	団体か個人か	成績
例〔全国 1. H〕	〔団体〕	〔団体戦2回戦まで進出〕
〔	〕〔団体・個人〕〔	〕
〔	〕〔団体・個人〕〔	〕
〔	〕〔団体・個人〕〔	〕

**Q20.** 顧問運動部は、競技レベルの点からみて、県下では「伝統のある」運動部ですか。

1. かなり伝統がある (5.9)
2. どちらかといえば伝統がある方 (21.5)

3. どちらともいえない (35.3)
4. どちらかといえば伝統がない方 (13.1)

5. 伝統は全くない (22.1)
6. わからない (1.4)
- DK, NA (0.6)

**SQ1.** 先生が部活動指導をされるときには、この伝統をどのように感じておられますか

1. とてもはげみになっている
2. 少しはげみになっている
3. どちらともいえない
4. 少し負担になっている
5. とても負担になっている
6. 全く関係ない

(注) SQ1. 略

**Q21.** 顧問運動部の活動計画は、おもに誰が立案していますか。

1. 自分が立案する (52.6)
2. 自分以外の顧問教師が立案する (6.6)
3. 顧問教師全員で立案する (5.9)
4. 部員が自主的に立案する (5.5)
5. 顧問教師と部員が協議して立案する (24.9)
6. その他 (3.5)
- DK, NA (1.0)

Q22. 顧問運動部には後援会はありますか。

1. ある (25.3)    2. ない (74.0)    DK, NA (0.7)

→SQ1. 後援会の母体はどこですか

1. PTA (5.9)    2. 部員の父兄 (18.7)    3. 部の卒業生 (0.3)    4. その他 (0.7)

→SQ2. 後援会は部に対してどのようなことをしてくれますか (あてはまるもの全てを○でかこんでください)

1. 金銭的な援助 (17.6)    2. 合宿の手伝い (2.4)    3. 指導の手伝い (5.5)  
4. 試合の応援 (17.0)    5. 特に援助はない (1.0)    6. その他 (2.4)

→SQ3. では、先生が、部活動指導をされるときは、この後援会の存在をどのように感じておられますか。

1. とてもはげみになっている (5.2)    2. 少しはげみになっている (5.2)  
3. どちらともいえない (8.3)    4. 少し負担になっている (1.0)  
5. とても負担になっている (1.0)    6. 全く関係ない (4.2)

Q23. この1年間の顧問運動部の経費はどのくらいでしたか。

1. ~4万 (41.2)    2. ~9万 (33.2)    3. ~19万 (12.1)    4. ~29万 (6.2)    5. ~39万 (1.7)  
6. ~49万 (1.4)    7. ~100万 (2.4)    8. 100万円以上 (約 万) (0.3)    DK, NA (1.4)

SQ1. その経費はどこから出ていますか (あてはまるもの全てを○でかこんでください)

1. 学校    2. 後援会    3. PTA    4. 部員    5. 部員の父兄    6. その他 ( )

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	DK NA
	学校	部員	後援会, PTA 部員の父兄, その他	①と②	①と③	②と③	①②③	
%	38.4	3.8	23.5	3.1	21.1	3.1	5.9	1.0

SQ2. この経費は、先生が部活動指導するのに十分でしたか

1. 十分だった (7.6)    2. まあまあだった (38.4)    3. 少し足りなかった (26.6)  
4. まったく足りなかった (21.8)    5. よくわからない (4.5)    DK, NA (1.0)

Q24. 先生が学校では、学校の方針として全ての運動部の活動を積極的に振興していますか。

1. かなり積極的 (23.2)    2. どちらかといえば積極的な方 (42.9)  
3. どちらともいえない (18.3)    4. どちらかといえば消極的な方 (12.1)  
5. かなり消極的 (3.1)    DK, NA (0.3)

Q25. 顧問運動部の活動を活発にし、競技レベルを上げる (試合や大会でよい成績を上げる) ことに対して、つぎの人たちは、どの程度の期待や関心をもっていると思われるか、それぞれの人たちについてあてはまる数字を○でかこんでください。

表 22 参照

Q26. 先生は運動部の顧問になってから、部活動の指導 (引率や応援も含めて) のほかに部員の進路や学業成績や私生活について指導・助言をされたことがありますか。

表 19 参照

Q27. では、運動部員の父兄に対して、運動部の活動状況や部員個人のこと (進路・私生活・成績など) について連絡をとったり、相談したりされたことがありますか。

1. いつも積極的に行った (6.9)    2. 年1~2回程度定期的に行った (11.4)  
3. 特別な事情がある時だけ行った (64.4)    4. そういうことは全くしなかった (17.0)  
5. その他 (0.3)

つぎに、先生ご自身のスポーツ受好程度、スポーツ経験、顧問運動部の指導とその影響などについておききます。

**Q28.** 先生はスポーツは好きですか。

1. とても好き 2. 好きな方 3. 好きでもきらいでもない 4. きらいな方 5. とてもきらい

**Q29.** では、ご自分でスポーツをスルことは好きですか。

1. とても好き 2. 好きな方 3. 好きでもきらいでもない 4. きらいな方 5. とてもきらい

**Q30.** 顧問運動部のスポーツは、自分でスル・シナイに関係なく好きですか。

1. とても好き 2. 好きな方 3. 好きでもきらいでもない 4. きらいな方 5. とてもきらい

**Q 28.~ 30. 表 2 参照**

**Q31.** 先生は顧問運動部のスポーツを先生の学校時代に経験されたことがありますか。

1. 経験した 2. 経験しなかった

**SQ 1.** 主にどこで経験されましたか

1. 運動部に入って 2. 昼休みや放課後の自由時間に 3. 地域のスポーツクラブや道場で  
4. 体育の授業で 5. その他( )

**表 5 参照**

**Q32.** 先生は、学校時代になにか運動部に加入されていたことがありますか。

1. ある 2. ない

→ **SQ 1.** 学校段階別に運動部の名称、所属年数をかいてください(例、中学で野球部 2 年、高校でバレー部 1 年) **表 3, 4, 6 参照**

→ **SQ 2.** 全般的にみて、先生はご自身の学校時代の運動部活動に積極的に参加された方ですか。

1. かなり活発にやった 2. まあ活発な方だった  
3. どちらかといえば不活発な方だった 4. 大変不活発だった

→ **SQ 3.** 選手として対外試合に参加された経験はありますか

1. ある 2. ない

**SQ 4.** 参加した試合のうち、最高のものはつぎのどれにあたりますか、1つだけ○でかこんでください

1. 国際試合 2. 全国大会 3. 地区・ブロック大会 4. 県大会 5. その他( )

**SQ 2~ 4. 表 7 参照**

**Q33.** ところで、先生は顧問運動部の活動で技術的指導をされていますか。

1. 率先していつも技術的指導をしている(54.7) 2. ときどき技術的指導をする(35.3)

**SQ 1.** では、その技術をどこで修得されましたか

1. 学校時代の運動部で 2. 学校以外のスポーツクラブで  
3. 独学で 4. 生徒と一緒に 5. 研修会や講習会で  
6. 体育の授業で 7. その他( )

3. 技術的指導はしない(10.0)

**SQ 2.** それは、おもにどのような理由からですか。

(N = 289)

	運動部で	運動部と運動部以外で	運動部以外で
%	23.5	10.4	20.8

**Q34.** 先生は顧問運動部を指導するために、体育・スポーツ関係の書物や雑誌を読んだり、技術修得をするためにスポーツクラブに入ったりして自己研修をされていますか。

1. いつもしている } → それはどんなことですか  
 2. ときどきしている }  
 3. 心がけているがなかなかできない 4. していない

**Q35.** 先生は、顧問運動部指導のための研修会や講習会の機会があれば参加したいと思いますか。

**Q34. 35. 表 9 参照**

**Q36.** 先生は、顧問運動部に関係する資格、例えば剣道 2 段、××公認○級トレーナー、××公認○級審判員などをおもちですか。

1. もっている (28.0) → それはどのようなものですか ( )  
 2. もっていない (72.0)

**Q37.** 先生は、現在、中・高体連や地域の体育スポーツ団体に関係しておられますか。

1. 関係している (35.6) 2. 関係していない (63.7) DK, NA (0.7)

→ **SQ 1.** その団体名とそこでの役職があればそれもあわせてお書きください。多い場合はもっとも深い(強い)関係のものから3つかいてください。  
 [ 略 ]

→ **SQ 2.** では、これらの団体に関係していることが、顧問運動部を指導する上で役に立っていますか (N = 289)

1. かなり役立っている (11.8) 2. 少し役立っている (11.8)  
 3. どちらともいえない (5.5) 4. あまり役立っていない (3.8)  
 5. 全く役立っていない (1.4) 6. わからない (1.0) DK, NA (0.3)

→ **SQ 3.** それでは、顧問運動部の成績が、これらの団体の中の先生の発言力や役職などに関係することがありますか (N = 289)

1. 大いに関係する (0.7) 2. 少し関係する (7.6) 3. どちらともいえない (6.2)  
 4. あまり関係しない (9.0) 5. 全く関係しない (11.1) 6. わからない (0.7)  
 DK, NA (0.3)

**Q38.** 顧問運動部の指導によって、先生ご自身の家庭や仕事や自由時間や趣味活動などが犠牲になっているとお考えですか。それぞれのことがらについて、先生に当てはまる数字を○でかこんでください。

**表 20 参照**

**Q39.** 先生のご家庭では、先生の配偶者(妻または夫)は、先生が顧問運動部の指導のために帰宅時間が遅くなったり、休日や長期休暇中に指導に出かけられたり、出張されたりすることに対して理解がある方ですか。

**表 23 参照**

**Q40.** 先生は、ご自分のお金を顧問運動部の指導(部員との会食のための経費なども含めて)のために出費されることがありますか。

1. ある 2. ない

→ **SQ 1.** では、この1年間で先生が出費された金額はどのくらいですか — 約 ( ) 千円

**表 21 参照**

つぎに、運動部活動に対する先生の意識や態度などについておききます。

**Q41.** 先生は、顧問運動部の生徒の運動部員としての能力、意欲、態度などに満足されていますか。

**Q42.** では、先生は、顧問運動部のこの1年間の競技成績に満足されていますか。

**Q41. 42. 表 29 参照**

**Q43.** 先生は、顧問運動部を指導する際に、ご自分の指導能力に自信をお持ちですか。

表 8 参照

**Q44.** つぎの人たちは、先生の顧問運動部の指導に対して、その価値を十分認めていると思われますか。それぞれの人たちについて、あてはまる数字を○でかこんでください。

表 28 参照

**Q45.** つぎに、運動部活動について、8つの意見がかいてあります。それぞれの意見について、先生の気持や考えにもっとも近いのはどれですか。あてはまる数字を○でかこんでください。

表 31 参照

**Q46.** つぎに、運動部活動の教育的効果（意義）について8つの意見がかいてあります。それぞれの意見について先生の考えにあてはまる数字を○でかこんでください。

表 24 参照

**Q47.** 運動部活動をめぐって、さまざまな論議が行われていますが次の意見に対して先生の考えに近いのはA・Bどちらの意見ですか。

表 25，27 参照

**Q48.** 先生が顧問運動部の指導をされているときのお気持は、つぎのどれにもっとも近いですか。

表 30 参照

つぎに、先生の教師としての仕事とそれに対する意識や態度などについておききます。

**Q49.** 先生が下校される時刻は季節や曜日によって違いがあると思いますが、土曜日や職員会議などのある日を除いて、大体なん時ごろですか

春夏期（4～9月ごろ）－（ 時 分ごろ）、秋冬期（10月～3月ごろ）－（ 時 分ごろ）

表 11 参照

**Q50.** 授業が終って下校されるまでの間にされる教育活動も季節や曜日によって違いがあると思いますが、土曜日や定例の会議などがある日を除いて、主にどのようなことをされる場合が多いですか。つぎのなかから2つだけ選んで、そのことに費やす時間の多い方から記入してください。

表 12 参照

**Q51.** 日々、生活してゆくために、先生がお使いになるエネルギーが10あるとすると、先生はそのエネルギーを仕事、家庭、自分の余暇にどのように配分しておられますか。

仕事（学校）： 家 庭： 余 暇

例	( 4 )	( 4 )	( 2 )
	( )	( )	( )

表 10 参照

**Q52.** では、学校のなかで、つぎにかいてあるような仕事に先生がお使いになるエネルギーが10あるとしたら、先生は、そのエネルギーをどのように配分されていますか（時間や仕事の量、疲労の度合などから判断してください）。

1. 授業およびそのための教材研究や準備・点検・採点など……………( )	:	4
教科指導に直接関係のある仕事	:	:
2. 顧問運動部活動の指導……………( )	:	3
3. 顧問運動部以外の部活動の指導……………( )	:	0
4. 校務関係、その他の仕事（HR指導、生徒指導など）や雑務……………( )	:	3

表 13，14 参照

**Q53.** 先生は教師としての生活のなかで、顧問運動部の指導と授業を中心とした教科指導とどちらにやりがいをお感じになっていますか。

1. 顧問運動部の方にやりがいを感じている
2. どちらかといえば顧問運動部の指導の方にやりがいを感じている
3. どちらにも同じくらいやりがいを感じている
4. どちらかといえば教科指導の方にやりがいを感じている
5. 教科指導の方にやりがいを感じている
6. どちらにもやりがいを感じていない
7. その他 ( )

表 26 参照

**Q54.** 先生は、全般的にみて、ご自分の学校の生徒の能力、意欲、態度などに満足されていますか。

1. 非常に満足 (1.0)
2. どちらかといえば満足 (22.8)
3. どちらともいえない (19.7)
4. どちらかといえば不満足 (48.4)
5. 非常に不満足 (8.0)

**Q55.** では、現在、先生は教師生活に満足されていますか。

1. 非常に満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば不満足
5. 非常に不満足

表 15 参照

**Q56.** それでは、先生は、ご自分の生活のなかで、教師としての仕事と家庭や趣味など教師以外の生活とどちらに生きがいをお感じになっていますか。

1. 仕事の方に生きがいを感じている
2. どちらかといえば仕事の方に生きがいを感じている
3. どちらにも同じくらい生きがいを感じている
4. どちらかといえば仕事以外の生活の方に生きがいを感じている
5. 仕事以外の生活の方に生きがいを感じている
6. どちらにも生きがいを感じていない

表 16 参照

最後に先生ご自身と学校のことについておききします。

まず、学校のことについておききします。

**F 1.** 学校の所在地とその地域的特性

- (A) 1. 岐阜県 2. 愛知県 3. 三重県 4. 静岡県 → 表 1 参照
- (B) 1. 市 2. 町 3. 村
- (C) 1. 人口 100 万人以上 2. 30 万人以上 3. 20 万人以上 4. 10 万人以上  
5. 5 万人以上 6. 3 万人以上 7. 1 万人以上 8. 1 万人未満
- (D) 1. 住宅街 2. 商店街 3. 工場地帯 4. 団地 5. 農・漁・山・村 6. その他 ( )

**F 2.** 学校の概要

- (E) 1. 私立 2. 県立 3. 市立 4. 町立 5. 村立
- (F) 1. 中学校 2. 高等学校
- (G) 学科 — ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

(注) 2 つ以上の学科のある場合は学級数をその下に記入してください。

- (H) 1. 男生徒のみ 2. 男生徒が多い 3. 男・女生徒半々くらい 4. 女生徒が多い  
5. 女生徒のみ
- (I) 生徒総数、約( )人
- (J) 進路状況 1. 進学率約( )% 就職率約( )% その他約( )%  
2. 今年はじめて卒業生がでたので詳細不明  
3. 新設校で卒業生なし
- (K) 学校創立期 1. 昭和20年以前 2. 昭和20年代 3. 昭和30年代  
4. 昭和40年代 5. 昭和50年代

つぎに、先生ご自身のことについておききます。

- F 3. 先生はこの4月で満なん歳ですか ( )歳
- F 4. 先生の性別はどちらですか 1. 男 2. 女
- F 5. 先生は結婚されていますか 1. 未婚 2. 既婚 3. 結婚したが離婚・死別した
- F 6. 先生の担当教科はなんですか( )( )( )
- F 7. 先生の1週間の授業時間数はなん時間ですか—( )時間
- F 8. 先生は学級(HR)担任をされていますか— 1. している(主・副 年) 2. していない
- F 9. 先生の教職経験年数はこの4月で満なん年ですか—( )年
- F 10. 現在の学校での在職年数はこの4月でなん年ですか—( )年
- F 11. 先生は、どのような校務分掌をされていますか、また校務分掌での地位はなんですか  
(例：○○主任、××委員長、△△課長)  
( )( )( )( )

表1参照

長時間、広範多岐にわたる質問項目に対してご回答いただき大変  
ありがとうございました。

先生のご協力に対し心よりお礼を申し上げます。

調査票だけを同封の封筒に入れて3月末日までにご返送くださ  
いますようお願いいたします。

- 注 1. 本文で報告(引用)した質問項目については、原則として回答項目(選択肢)と単  
純集計の結果を割愛した。
2. 質問項目のうち自由記述形式の回答の結果はすべて省略した。
3. 調査票の中で、表○参照とは、本文の表の番号を示し、当該表に回答項目(選択肢)  
の内容と単純集計の結果が記載されていることを示す。
4. 調査方法の概要については、本文のⅡ研究の方法(PP 52～53)に記載した。